

建築・不動産関係者への質問事項

I. 建築物（住宅等）の品質の管理等について（業種別の質問）

1. 設計業（(株)現代計画研究所が回答）

- ①構造設計は自ら行っているか。他の事務所に依頼する（外注）のか。
また、外注とする理由は何か。（資料：業界における外注の割合）
- ②構造を外注した場合でも、構造計算の責任は元請けの設計者にある
との認識はあるか。
そのための構造設計の確実性の確保手段はとっているか。
- ③構造設計のミス等をチェックするための仕組みを作っているか。

2. 構造設計（(有)金箱構造設計事務所が回答）

- ①極端な例は別としても、不適切な構造設計は、プロなら本当に
一目で分かるものなのか。
- ②構造設計のミス等をチェックする仕組みを作っているか。
- ③意匠、経済性等と構造設計が不整合のとき、どうしているか。

3. 建築業（大成建設(株)が回答）

- ①設計の外注先はどういう考えで選定しているのか。
（設計ミスも、顧客に対しては、施工者の責任を問われる中で）
- ②施工管理の段階で、構造設計のミス等を発見することは可能か
また、そのための仕組みを設けているか。
- ③建築業の丸投げにについてどう思われるか。特に、品質管理方策
の点においてどう思われるか。

4. 不動産業（(株)大京が回答）

- ①設計、建設等の実施者をどう選定しているか。特に、技術力、
信頼性についてチェックしているか。
（設計ミスも、顧客に対しては、施工者の責任を問われる中で）
- ②販売等する建築物の品質について、自らチェックする仕組みを
もっているか。
- ③設計を発注している場合、設計ミスなどのリスク管理をどうし
ているのか。また、その保証に対する考え方如何。

Ⅱ 危機管理対応（全業種共通。以下同じ。）

1. 今回の偽装問題についての対応

- ①消費者等からの問い合わせ等はなかったか。また、あれば、
どういう対応をしているか。
- ②消費者からのアクションを待つことなく、積極的に情報提供
等を行ったか。

2. 今回の偽装問題への対応の評価

今回の偽装問題にかかる、関係建設業者、販売業者等の事後の対応
をどう見ているか。

3. 万一、今回の問題のような事案に巻き込まれた場合の、危機管理 体制は、事前に用意されているか。

Ⅲ 危機回避のための情報把握、伝達、共有化

1. 問題を発見するための内部通報等の仕組みを用意しているか

2. 危機の回避のためには、情報の共有化はどうあるべきと考えるか （情報の確度に応じて、組織トップへの伝達、関係行政部局への連絡、 消費者への情報提供をどう考えるか）

3. 行政に対して、問題の発見や可能性について、通報することに障壁 はないか

Ⅳ 業界関係

1. 業界団体の倫理綱領、倫理プログラム等の整備状況及び運用状況（違 反前の是正等）はどうか。（その理由に対する見解）

2. 業界団体のメンバーであることの消費者への広報についての見解

3. 瑕疵担保責任・損害賠償保険等の保険はあるか（住宅性能保証制度等）。 あるとすると、加入率はどうか。また、その理由についての見解は。

V 行政、検査機関について

1. 建築確認検査は、行政、民間機関のどちらを使っているか。
また、その選択はどういう基準によるものか（その理由も）。
誰が選んでいるのか。
2. 現行の確認検査システムについて、必要と思われる改善点は
どうか
3. 今回の偽装問題発生後の行政対応についての意見・評価

VI その他

1. 今回の行為を働いた人々がねらったメリットは、材工費削減
によるコストダウンというよりもプロジェクト期間・工期短
縮による経費節減であるという推察に対してどう思うか。
2. 【こちらのみ、口頭でご回答下さい】
審査機関には構造の理解できる担当者はいると感じているか。

基礎資料

1. 会社概要（規模、組織、実績等。従業員数、うち建築技術者数を含む。）
2. 業界団体概要（加入率を含む。倫理綱領等もあれば）